

## <各グループからの主な意見（市町村）>

### 1. 教育の質の向上と教員の働き方改革について

#### ○校務支援システムについて

- ・ 校務支援システムの導入時には、現場での戸惑いもあったが、業務改善につながるが見えてきている。教員の異動、子どもの転校についても一括管理でき、非常に有用だと感じている。
- ・ 教員への一人一台端末の配備や校務支援システムの導入により、会議のペーパーレス化や事務作業の効率化ができた。
- ・ 一人一台端末の更新の時期が近づき、メンテナンスも必要であるので、財政面での支援をお願いしたい。
- ・ 全県的に必要なシステムであるならば、導入は県下一斉にしてほしかった。

#### ○GIGA スクール運営支援センターについて

- ・ GIGA スクール運営支援センターのアドバイスを受け、アンケートの管理が円滑にできた。
- ・ 実際に学校へ来て支援してくれる民間の支援スタッフを利用しているので、GIGA スクール運営支援センターをあまり活用できていない。

#### ○部活動の地域移行について

- ・ 懇談会を順次開催し、ゆくゆくは部活動を拠点施設に集約していく計画をしている。
- ・ 部活動は、学校でするものという意識が根強いので、社会全体で行っていくという意識改革や啓発が必要である。
- ・ 部活動を地域で行う受け皿となる母体がなく、指導者の確保が難しい。
- ・ 部活動で何を指すのかについて、整理が必要である。
- ・ 部活動は、教育活動、特に生徒指導に有効であるという点も踏まえて、検討が必要である。
- ・ 部活動の費用、責任の所在、送迎、学校の教員と地域の指導者との連携などの課題がある。
- ・ 地域によって、子どもの数、校区の広さなども異なるので、地域の実情に合わせて進めてほしい。

#### ○教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置について

- ・ 教員業務支援員の配置は、大変有用なので、国や県の支援をいただきながら、市町村も積極的に導入を進めていきたい。
- ・ 市費の事務職員を雇用し、通常の事務業務と合わせて管理職の事務業務をサポートしている。
- ・ 様々な課題をもつ子どもが多いことや教員不足から、直接子どもに接する支援を担っていただくことが多く、本当の働き方改革につながっていない。

#### ○その他

- ・ 2学期制の導入や留守番電話の設置が、働き方改革につながっている。
- ・ 働き方改革は、教員の充実感を大切に、教員が心のゆとりを持てるような環境の設定が必要である。
- ・ 教員になった時の情熱を維持できるようにサポートしていきたい。
- ・ 教育の質の向上とは、マネジメント機能を高めた特色ある学校経営、確かな教師力を持った教員の育成、生徒指導と学びの充実である。それを叶えるための働き方改革である。
- ・ 働き方改革が生み出す教育の質の向上とは、子どもたちの学びたいという気持ちを育てることに尽きる。

- ・ 人件費を確保しても雇用する教員がいない。教員の給料を上げ、教員を目指す人材を増やし、教員を多く配置することが大切だ。
- ・ 特に、初任者教員、管理職および各校1名配置の栄養士などの教員が超過勤務をしている。
- ・ 働き方改革によって、教育の質が向上したか検証することも大切である。
- ・ 学校の教員が社会教育の指導者を兼務した場合、その労働時間が課題である。
- ・ 国と県で調査等を精選してもらえると、事務的業務の削減につながる。

## 2. 奈良県教育ジャーナルで紹介して欲しい取組内容について

- ・ 憧れた先生、学びたい気持ちはどのように出てきたのかなど、子どもや保護者の声を掲載してほしい。
- ・ 全国の状況や企業等に学ぶ変革の知恵を授けてくれる記事を掲載してほしい。
- ・ へき地の小さな学校の取組も掲載してほしい。
- ・ 学びの多様性を保障するオンライン指導、特に不登校支援の取組の事例、指導力の向上に向けた特色ある教職員研修の事例などを掲載してほしい。
- ・ 様々な教育課題をもつ子どもへの具体的な取組を掲載し、地に足をつけた取組を後押ししてもらえるようなジャーナルになってほしい。
- ・ ターゲットを絞って、住民や保護者を巻き込み、県の教育行政について県民にアピールしていただきたい。
- ・ 家庭や地域に広く発信する事が目的であるので、県内全世帯配布が望ましい。

### <総括（県教育長）>

- 一人一台端末のリース契約が切れる時期には、県として一括購入をする予定である。その際には、県からも一定の見解を出す、市町村でも時期や機種などを検討しておいてほしい。
- 部活動については、子どもの数も減少しており、学校での活動維持には限界がある。子どもにスポーツをする機会を提供するためには、部活動の地域移行は必要である。

### <総括（知事）>

- 教育サミットは、行政の長と教育長の対話の機会であり、現場の声を聴くことが大きな目標である。このような勉強会を通じて、奈良県の教育が良くなればと願っている。
- 本日の協議を経て、教育の質が向上すると、教員の働き方が改革できるという関係ではなく、働き方改革をすると教育の質が向上すると感じた。
- 今までの働き方改革は、教員に経済的な支援をすることが中心だった。しかし、今は教員に時間的なゆとりをもってもらうことが大きな目標になっている。教員にゆとりがあると、ゆっくりとした気持ちで情熱も湧き、結果として教育の質の向上につながるのではないかと。
- 県では、働き方改革条例を作っているが、働く上での目標、何のために時間を使っているのかという目標の設定が大事である。県職員と教員では違うかもしれないが、どの組織でも目標の設定は大切だ。
- 職場環境を改善すればストレスフリーになる。県でも職場環境の改善に取り組んでいる。学校に当てはめれば、教室や職員室などの環境改善である。「教員の働き方を改善し教育の質の向上を図る条例」を作るといふことも考えられる。